

2020年4月5日
東京聖三教会

イザヤ 45:21-25
フィリピ 2:5-11
マタイ 27:1-54

あなたがたは、清い心で深く愛し合いなさい



*My father, if it is possible
let this cup pass me by*

日本聖公会東京教区
東京聖三一教会

2020年4月5日
東京聖三教会

イザヤ 45:21-25
フィリピ 2:5-11
マタイ 27:1-54

主は、あなたの道のどこにおいても守らせてくださる。

司祭 シモン 林 永寅

T. S. エリオットという詩人は「荒地(The Waste Land)」という詩を通して、「四月は残酷な月」と言いました。この詩の表現のように、最近私たちはコロナウイルスという前代未聞の残酷な状況を迎えています。日本だけでなく、世界中の多くの人々が犠牲となり、苦しんでいます。仕事を失った人も数えきれません。

このような状況で、「神様はなぜ沈黙をしていらっしゃるのか」という疑問が心の中に浮かんだりもします。そしてイエス様が十字架に掛けられて息を引き取られる前「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という叫び声が耳元によみがえってきます。その時も神様は沈黙されていたのでしょうか。しかし、私たちは知っており、また信じています。神様は沈黙の中でも語っておられるのです。沈黙の中でも苦しんでいる人、悩んでいる人、悲しんでいる人、弱い人たちを支え、慰め、励ましておられます。そしてわたしたちに、「キリストの体」として「キリストの手と足」となり、この困難を乗り越えるために、他人への配慮と、社会的な責任を果たすことを望んでおられる、ということをお話し

たちは心を通して感じることができます。

イエス様が十字架で亡くなられた背景は当時の社会的状況を通して分かります。祭司長たちと長老たちは、イエス様のせい自分たちの既得権が揺さぶられると思っていました。群衆は祭司長たちと長老たちの扇動にだまされ、「イエスを十字架につけろ」と叫びました。ピラドはイエス様に罪のないことを知っていながらも騒動が起こることを望まなかったため、群衆の要求にそのまま従ってしまいます。それはそれほど騒動が激しい状況であったことも理由の一つですが、もうひとつ重要な問題があったと感じられることがあります。それは、群衆は勿論、祭司長たち、長老たち、ピラドは沈黙の中でも語っておられる神様のみ言葉を聞かなかったということです。

沈黙の中に聞こえる神様のみ言葉を聞き、理解し、行動することは大変難しいことです。しかし、利害関係や恐ろしさ、固定観念を捨てて、心より神様の声を聞こうと努力すれば、神様の声を聞くことができます。わたしたちは神様より清い心を授かったキリスト信仰者であるからです。

今日のこの世は、移り変わりも激しく、地震と災難、感染症など今まで経験したことのないことが頻繁に起こっています。そのためこの世を恐れ、希望を失ったように感じている人もいます。しかし、私はそれほど悲観的ではないと思います。いや、むしろ希望があると思います。それは、この世界は神様よりいただいた贈り物であるからです。そして、このような厳しい状況にも多くの人々がお互いに思いやり、社会的な協力で黙々と励んでいるからです。

さらに、わたしたち聖公会の信仰者たちは、誰よりも誇らしい姿を見せています。信仰者として何よりも大切な主日の礼拝をも中止してまで、

そして多様な信仰の集いを中止してまで社会的な責任を果たそうと努力しています。これは、信仰的な理性を大切にす聖公会の精神の実践であると思います。また、信徒同士がお互いに安否を尋ね、慰めと励ましの言葉を伝えています。ことは、イエス様のおっしゃった兄弟愛をしっかりと実践する立派なことです。礼拝に出席することができないこの現実は残念ですが、コロナウイルスの状況が終息する時まで、心を合わせて共に努力すれば、神様も誉め、祝福も与えてくださるでしょう。

信仰者として生きていくということは、神様のうちに自分の人生の主人になることです。利害関係を越え、恐れを乗り越え、正しい道を歩みながら生きていこうということです。わたしは、イエス様も、わたしたちがそのような人として生きていきなさいという旨をもってご自分の命を捧げられた、と思います。大した実践ではないとしても、身近な小さなことから始め、他人を思いやり、お互いに協力する姿勢をもって生きれば、神様はかならず正しい人であると認めてくださるでしょう。

詩編第91編にはこのように記されています。

「あなたには災難もふりかかることがなく、天幕には疫病も触れることがない。主はあなたのために、御使いに命じて、あなたの道のどこにおいても守らせてくださる。」(詩編 91:10-11)

このみ言葉を胸の中に抱き、イエス様の持つておられる心、兄弟愛を分かち合いながら、コロナウイルスの終息のための社会的な努力に共に協力していきましょう。そうすれば、神様はわたしたちの祈りを叶えてくださるでしょう。

一日も早くコロナウイルスが終息し、共に礼拝を捧げることができますように祈り、大斎節の最後の1週間、お祈りを通して信仰がさらに堅

固になり、苦難の中でも神様のみ言葉を通して復活の恵みを豊かに受けられますように心よりお祈りいたします。